

主 題：誠実な信仰者

聖書箇所：ヨブ記 2章3節

今日は父の日ということで、様々な父親像が紹介されています。どんな父親がすばらしいのか、いろいろな人の意見を聞くそのような機会ですが、マスコミは私たちに神が喜ばれる父親像については教えてくれません。神はどんな父親をお喜びになるのか？どのような父親になることを求めておられるのでしょうか？そのことは神のおことばである聖書が私たちに教えてくれます。今から、私たちはある一人の人物について学んでいきます。その人はヨブです。皆さん、よくご存じの人物だと思いますが、すばらしい父親でした。それ以上に、すばらしい信仰者でした。私たちはたくさんの方のことを彼から学びます。もちろん、男性としてもそうだし、女性の皆さんもそうです。なぜなら、彼がこのようすばらしい父親であったのは、その前に彼はすばらしい信仰者であったからです。ヨブ記1章から見ていきましょう。

◎ヨブはどのような人物だったのか？

1章1節にはその説明がされています。「ウツの地にヨブという名の人があった。この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。」

(1) 居住地：ウツの地

彼が住んでいたのはウツという町でした。今、地図を見てもその名は見当たりません。ただ、このように言われています。イスラエルの地図を思い出していただくと、ガリラヤ湖があつて南に死海があります。その二つをヨルダン川が繋いでいますが、ヨルダン川が流れ込んでいるところが死海です。その死海の南東に位置するところ、そこにこのウツという町があったのだろつと言われます。エドムという町こそがウツだと言う人もいます。また、聖書にはこのウツに関するいろいろなことが記されていますが、そこに見る文化やことばや地理、また、博物学などから、少なくとも、このウツはアラビアの北部であったと言われます。1：19には「そこへ荒野のほうから大風が吹いて来て、…」とあるので、この町は砂漠にも近かつたこと、そして、1：3、14を見ても、最後の42章を見ても、そこは農耕や牧畜に適していた地であつたことが分かります。そこにこのヨブという人物があつたのです。

(2) 霊的な父

もう一つ、彼について私たちが学んでおきたいことは、1節の後半に書かれているように、すばらしい信仰者であつたということです。「…潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。」とあります。このことについては後で見ますが、5節を見てください。ここからヨブは非常に霊的な父親であつたことが分かります。「こうして祝宴の日が一巡すると、ヨブは彼らを呼び寄せ、聖別することにしていた。彼は翌朝早く、彼らひとりひとりのために、それぞれの全焼のいけにえをささげた。ヨブは、「私の息子たちが、あるいは罪を犯し、心の中で神をのろつたかもしれない」と思ったからである。ヨブはいつもこのようにしていた。」と、ヨブは子どもたちが罪を犯したことを知っているから、神の前にその罪を赦していただくとして全焼のいけにえをささげ続けていたのです。ヨブは子どもたちに対して、特に、子どもたちの霊的な状態、信仰について高い関心を払っています。それは子どもたちひとり一人が神に喜ばれる者となり、そのように歩み続けることを望んでいたからです。そして、4節には子どもたちがお互いを愛し合つていた様子が記されています。「4 彼の息子たちは互いに行き来し、それぞれ自分の日に、その家で祝宴を開き、人をやつて彼らの三人の姉妹も招き、彼らといっしょに飲み食いするのを常としていた。」、子どもたちそれぞれの誕生日には皆が集まつてお祝をしたのです。非常に仲のいい家族だつたと言えます。恐らく、ヨブはそのようにしっかり教えて、子どもたちはその教えに従つて歩んでいた、すばらしい家庭であつたということ私たちが見ることが出来ます。

ヨブは大切なことを子どもたちにしっかり教えただけでなく、これから見ていきますが、彼は自分の生き様をもって、信仰者はどうあるべきか？どのように生きるべきか？そのことを教えます。ですから、大切なレッスンを子どもたちに、ことばをもって、自分の生き様をもって教えていた人物であつたと、ここに記されています。簡単に、ヨブがどのような人物かを見て来ましたが、今から見るのは非常に大切なことです。ヨブを周りの人たちがどのように評価していたのか？ではなく、神がどのように評価していたのか？そのことをこれから見ていきます。私たちにとつて最も大切なのはそのことだからです。人間はいろいろなことを言います。彼らはもしかすると私たちのうわべしか見ないでしょう。でも、神は私たちの心をご覧になっています。人から誤解されても皆さんの心の中を見ておられるのは神です。そして、私たちはその方の前に立つてその方から審判を受けるのです。私たちが考えなければいけないのは、その神を覚えて、その神の前に立つ日を覚えながら今日を生きていくことです。人からのいろいろ

るな評価ではなく、神ご自身が私をどのように評価して下さるのか、そのことを考えなければいけないのです。ヨブはそのことをしっかり考えながら生きていた人です。驚くべきことは、神はこのような評価をヨブに与えていたのです。その二つの評価を見ていきます。2回に亘って、神はヨブへの評価を与えています。

☆神のヨブへの評価

A. ヨブについての神の評価（1） 1：1

1：8を見てください。「【主】はサタンに仰せられた。」とあります。実は、ヨブを誘惑する許可をもらうために神の前にサタンがやって来るのです。そのサタンに神は言われます。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが。」、1：1にも同じことが書かれています。「この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。」と。私たちが注目しなければならないことは、これはだれかが言ったことではない、だれかがヨブに対して与えた評価ではないということです。心の中のすべての考えや思いのすべてをご存じの神がヨブに対してこのような評価をしているということです。神ご自身がサタンに対してこのように言われたのです。「おまえが目に留めた人物はこういう人だ」と。「潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいない」と、すごい評価です。ヨブに罪がなかったというわけではありません。彼も私たちと同じようにいろいろな罪を経験し、神の前に数々の失敗もしました。しかし、驚くべきことは、このような評価を神はヨブに対してしておられたということです。彼はどのように生きたのか？それゆえに、彼はどのようにしてこのような評価を得ることになったのか？私たちはそれを見ることによって、私たちも同じように歩むことが可能になるのです。ヨブへの神の評価の四つの特徴が記されています。

1. 潔白な人

このことばが使われるときは常に、道徳的な意味をもって使われます。ですから、ヨブは道徳的に正しい人だったのです。別の言い方をすると、彼は非難されるところがなかったということです。新約の教えにも、教会のリーダーの条件の一つは「非難されるところがない者」とあります。これは罪を犯したことがないというわけではありません。もしそうなら、だれひとりそれに適いません。罪を犯したなら、正しく解決するのです。常に、神の前に正しく歩んでいるゆえに、「あの人はこのように歩んでいるのではないですか？このように罪の中を生きているのではないですか？」と後ろ指を指されることがないのである。

2. 正しい人

ここで使われているヘブル語は「まっすぐ」という意味があります。ヨブは神の前をまっすぐ歩んでいた、神の教えに対してまっすぐ歩んでいた、神が喜ばれる歩みを歩み続けていたと、そのことを私たちは知ります。

3. 神を恐れる人

神に対して深い畏敬の念を抱いていたということです。別の言い方をすると、神の前を日々真剣に生きた人です。今日という日を真剣に生きたのです。神の目が私に注がれていること、神が私のすべてをご覧になっていること、そのことを覚えて、与えられた日を一生懸命主のために生きようとしたのです。ですから、当然、彼は自分の心に迫って来る様々な罪や誘惑から自分を守ろうとしたでしょうし、世的なものに心をリードするような誘惑からも自分の心を守ろうとしました。ですから、神の目を恐れながら、その日を真剣に、そして、神が喜ばれることは何かを考えながら生きた人です。

4. 聖い人

「悪から遠ざかっている」とあります。私たちもこのことばを見ると、悪に負けたいための一番いい方法は「悪から遠ざかること」だと知ります。近づいていくなれば私達はすぐにその誘惑に負けてしまいます。それほど私達は強い者ではありません。ですから、出来るだけ、私達を罪に導いていく誘惑から遠ざかることです。

このように見て来た四つの特徴ですが、このように、こんな人としてヨブは神の目に映っていたのです。繰り返しますが、すばらしい信仰者でした。神はこのようにヨブを評価されました。

B. ヨブについての神の評価（2） 2：3

* 誠実

続いて、二つ目の評価ですが、2：3をご覧ください。同じように「【主】はサタンに仰せられた。」とあります。1：8とほとんど同じことばです。これはサタンが2回目に主の前に立って、そして、再び、ヨブを苦しめるその許可を求めるのです。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいない。…」と、これは1：8と同じことばです。同じことが言われています。ところが、一つだけ付け加えられています。その後を見てください。

「彼はなお、自分の誠実を堅く保っている。」とあります。1：8にはこのことばがありませんでした。だ

からと言って彼は誠実な人ではなかったというわけではありません。「彼はなお、」とあります。彼は今も「誠実を堅く保っている」と言うのです。これまでも守っていたけれど、いろいろなことがあったにも関わらず、彼はまだ誠実であり続けるということです。

しかし、神は敢えてここで「誠実」ということばを加えています。「誠実」とは、「高潔さ、清廉さ」です。そして、これが神のヨブに対する評価だと言うのです。ですから、私たちは今から、このヨブが誠実な人物であったと神が言われたこと、それがどういう意味なのかを見ていきます。ヨブは誠実な人であったと神が言われたのには理由があるのです。確かに、彼は誠実に歩んでいたからです。どのように彼が生きていたのか見ていきましょう。

◎なぜ、ヨブの評価に「誠実」が加えられたのか？

1. ヨブへの試練 1：8

私たちが覚えるべきことは、ヨブは大変な試練に遭遇したということです。先ほど、1：8と2：3を見ましたが、サタンはヨブを試すために主なる神の前に立っています。このことが私たちに教えるのは、サタンは常にあることを目的にしているということです。サタンはまだイエス・キリストの罪の赦しを受けていない人に対しては、この神が備えられた永遠の救いがどんなにすばらしいのか、そのすばらしさを見せないようにします。罪の赦し、永遠の救いがどんなにすばらしいものであるかを彼らが悟らないように、悟って信じないようにと妨げを為し続けます。そのような働きをするのです。なぜなら、サタンは一人でもこの救いに与らないように、彼と運命をともにするようにと誘惑をし続けるのです。でも、すでに救いをいただいた者に対して、サタンはその幸せなど考えていません。サタンはすべての人間の幸せを考えていません。彼は自分のことしか考えません。だから、救いに与った者に対して、彼らを苦しめることだけを考えます。ヨブに関して神に訴えたことについても、彼を苦しめることだけです。サタンはいつの時代でも、どこにあっても同じことをし続けます。

そこで、サタンは主の前にヨブを苦しめることの許可を求めます。神はなぜこのような訴えに許可を下されるのでしょうか？聖書はそのことを教えています。私たちが信仰において成長するために敢えてそのことを良しとされるのです。神は私たちの弱さをご存じです。その上で、耐えられない試練を与えることはしないとされました。その神がサタンのこのような申し出であったとしても、それを使って私たちに訓練してくださるのです。そこで言えることは、サタンは神の許可がなければ何もすることができないということです。なぜなら、サタンがどれ程望んでも、サタンは創造主なる神になることは有り得ないからです。でも、こうして聖書を見ると、このようなことが現実に行なわれていることを知ります。

サタンが主に申しあげたこと、サタンはヨブを苦しめようとするのです。1：8を見ると主がヨブにこのような評価を与えたと見ましたが、その主にサタンは反論します。9節に「サタンは【主】に答えて言った。「ヨブはいたずらに神を恐れましょうか。」とあります。つまり、サタンは「ヨブがあなたを愛して喜んであなたに従い続けているのは理由があるのです。彼は大変な祝福を経験しているからです。」と言います。確かに、ヨブには七人の息子と三人の娘がただけでなく、羊だけでも七千頭いたとあります。1：2-3「2 彼には七人の息子と三人の娘が生まれた。3 彼は羊七千頭、らくだ三千頭、牛五百びき、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべを持っていた。それでこの人は東の人々の中で一番の富豪であった。」とあります。「だから、あなたがそれらを除いたなら、彼は間違いなくあなたに怒りをもってあなたをのろってあなたに不信仰を現わすでしょう。彼が祝されているから、こんなに物質的に恵まれているから、だから、あなたを愛するのですよ。」と、これがサタンの言い分でした。

そして、先に見たように、神の全能の知恵によって神はそのことを良しとされます。大変な試練がこの後起こったことが、1章に記されています。ヨブのところに報告が届きます。

1) 家畜(牛やろば)が奪われ、若い者たちがシェバ人によって殺された

1：13-15「13 ある日、彼の息子、娘たちが、一番上の兄の家で食事をしたり、ぶどう酒を飲んだりしていたとき、14 使いがヨブのところに来て言った。「牛が耕し、そのそばで、ろばが草を食べていましたが、15 シェバ人が襲いかかり、これを奪い、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。」

2) 天からの火で家畜(羊)と若い者たちが殺された

1：16に「この者がまだ話している間に、他のひとりが来て言った。「神の火が天から下り、羊と若い者たちを焼き尽くしました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。」とある通りです。

3) らくだが奪われ若い者たちがカルデア人に殺された

1：17「この者がまだ話している間に、また他のひとりが来て言った。「カルデア人が三組になって、らくだを襲い、これを奪い、若い者たちを剣の刃で打ち殺しました。私ひとりだけがのがれて、お知らせするのです。」と。これだけでも相当辛いことなのに、さらに、最悪の知らせがヨブのところへ届くのです。

4) ヨブの息子と娘たちが、大風によって家が倒壊したのでみな亡くなってしまった

1 : 18 - 19 「:18 この者がまだ話している間に、また他のひとりが来て言った。「あなたのご子息や娘さんたちは一番上のお兄さんの家で、食事をしたりぶどう酒を飲んだりしておられました。:19 そこへ荒野のほうから大風が吹いて来て、家の四隅を打ち、それがお若い方々の上に倒れたので、みなさまは死なれました。私ひとりだけがのがれて、あなたにお知らせするのです。」と。

***このようなことを経験し、大変な悲しみの中にいたヨブ 1 : 20**

ヨブは大変な悲しみの中にいました。そのことが聖書に記されています。1 : 20に「このとき、ヨブは立ち上がり、その上着を引き裂き、頭をそり、地にひれ伏して礼拝し、」と。この地方においては人々はこのようにして自分の心の中の大きな悲しみを表現したのです。悲しみの表現方法は国によって違います。

・上着を裂き : 「自分の上着を引き裂いた」と、旧約の次の箇所にも記されています。

ヨブ 2 : 12 「彼らは遠くから目を上げて彼を見たが、それがヨブであることが見分けられないほどだった。彼らは声をあげて泣き、おのおの、自分の上着を引き裂き、ちりを天に向かって投げ、自分の頭の上にまき散らした。」
創世記 37 : 29, 34 「:29 さて、ルベンが穴のところに帰って来ると、なんと、ヨセフは穴の中にいなかった。彼は自分の着物を引き裂き、」、 「:34 ヤコブは自分の着物を引き裂き、荒布を腰にまとい、幾日もの間、その子のために泣き悲しんだ。」

創世記 44 : 13 「そこで彼らは着物を引き裂き、おのおのろばに荷を負わせて町に引き返した。」

士師記 11 : 35 「エフタは彼女を見るや、自分の着物を引き裂いて言った。「ああ、娘よ。あなたはほんとうに、私を打ちのめしてしまった。あなたは私を苦しめる者となった。私は【主】に向かって口を開いたのだから、もう取り消すことはできないのだ。」

・頭をそり : 「頭をそって、」と、私から栄光が去ったことを現わします。

イザヤ 15 : 2 「モアブは宮に、ディボンは高き所に、泣くために上る。ネボとメデバのことで、モアブは泣きわめく。頭をみなそり落とし、ひげもみな切り取って。」

エレミヤ 48 : 37 「彼らは頭の毛をみなそり、ひげもみな切り取り、手にもみな傷をつけ、腰に荒布を着けているからだ。」

エゼキエル 7 : 18 「彼らは荒布を身にまとい、恐怖に包まれ、彼らはみな恥じて顔を赤くし、彼らの頭はみなそられてしまう。」

このような行為をもって、自分たちが大変な悲しみの中にあることを証するのです。このようなことを読まなくても、間違いなく、人の親として、ヨブがどれ程の大変な悲しみの中に、絶望の中にいたかということは伺い知ることができます。

皆さんはどのように思われますか？自分の愛する子どもが一瞬のうちにいのちを落としてしまうなど、そのような方がこの中におられるかもしれませんが、その痛みは大変辛いものです。ヨブは一瞬にして持っていたすべてのものを失ってしまうのです。

私たちはこのような物質的なものを失ったときの悲しみは、小さいことであっても少し経験したかもしれません。ヨブはそれだけではありません。感情的にも辛かったのです。自分の愛する子どもたちがいのちを落としてしまったからです。子どもたちひとり一人の顔が浮かんで来て、楽しかったその時を思い起こして、ヨブは涙が尽きることがなかったでしょう。そのような大変な悲しみを経験していたヨブは、同時に、この後を見るとヨブ自身も告白していますが、霊的な悲しみも経験したのです。どのような経験か？このようなことを経験したヨブは、神が遠くにいるように感じるのです。また、ときに、神が自分から離れていってしまっって背を向けられたような状態です。「神さま、いったいあなたはどこに行ってしまったのですか？なぜ、こういうことが私に起こるのですか？」と。

彼の親しい三人の友人がやって来ますが、彼らはヨブを慰めるところかさばきました。ヨブ記の最後、42章を見ると、神はこの三人のしもべたちに対して非常にきびしいさばきを告げておられます。「…それは、あなたがたがわたしについて真実を語らず、わたしのしもべヨブのようではなかったからだ。」(42 : 7)と。本来なら、この友人たちはヨブの傷付いた心を癒すはずなのに、彼らは「あなたが罪を起こしたからこんな大変なことを経験しているのだ。その罪を悔い改めよ。」とヨブを責めました。ただ一人、この三人とは別の人物エリフ、聖書には彼は一番年が若かったと書かれていますが、彼は自分より先輩の三人に言います。「年長者が知恵深いわけではない。あなたがたが言っていることはおかしい。」と、神の真理を伝えるのです。

ですから、最後の42章には、神は三人の友人たちをきびしく責めて、彼らとその罪を悔い改めるように命じておられます。しかし、このエリフに対しては何も言われていません。なぜなら、エリフが語ったことは神の前に正しかったからです。このような経験の中で、自分のものが無くなった失望感、また、自分の愛するものを失ったときの大変な悲しみ、また、自分の親しい友人までも自分を責める、そして、神ご自身が自分から遠く離れていってしまったような、そのような絶望の中にあつたヨブ、彼も

私たちと同じように「どうして？」ということは何度も神に問い掛けています。

そして、エリフがヨブ自身の罪をこのように記しています。ヨブ記 33 : 12 - 14 「:12 聞け。私はあなたに答える。このことであなたは正しくない。」とエリフはヨブの罪を指摘します。「神は人よりも偉大だからである。:13 なぜ、あなたは神と言い争うのか。自分のことばに神がいちいち答えてくださらないといって。:14 神はある方法で語られ、また、ほかの方法で語られるが、人はそれに気づかない。」とあります。神がエリフを通して言われました。「ヨブ、あなたは間違っている。あなたは神に答えを求めている。」と。私たちもそのような失敗をしてしまいます。私たちの周りに起こるすべてのことに私たちは答えを求めたいのです。「なぜ、このようなことが起こるのですか？神さま、教えてください。教えてください。教えてください。そうでなければ私は納得できません。そうでなければ、私はこの状況を受け入れません。神さま、あなたはおかしい、間違っています。」と、放っておくとどんどん罪の深みに嵌っていきます。

今、エリフが言ったことをもう一度見てください。「なぜ、あなたは神と言い争うのか。自分のことばに神がいちいち答えてくださらないといって。」と、神が答えてくださらないからといってなぜ文句を言うのか？神はちゃんと答えてくださっている、私たちがそれに気付いていないと言うのです。私たちが何度も学んで来ているように、私たちの信仰は絶対者なる神に対するものです。この方は完全な神であるゆえに、この方の為さることはすべてにおいて完全なのです。そうでなければ神ではありません。この方は正しいお方ですから、この方が為さることは常に正しいことです。そうでなければご自身の性質に反することをを行なっていることとなります。

不完全なのは私たちです。完全な神が為さっておられる完全なみわざを理解できないのです。そして、私たちは不平不満を言うのです。神は「気づきなさい。あなたは神ではない。あなたはただの土から造られたものにすぎない、不完全なものだ。なぜ、そんなあなたがわたしと言い争うのか？わたしを信頼したらどうか！」と言われます。確かに、ヨブ自身がこのような罪を犯していたことがエリフによって明らかにされました。ヨブはそのことを神の前に悔い改めます。確かに、そのようなことが起こっていくのですが、この1章と2章を見たときに、神が「ヨブのような誠実な者はいない。彼は誠実を堅く保っている。」と言われたのは、ヨブの対応によるのです。

2. ヨブの対応

このような悲しみを経験したヨブがどのようにその現状に対して対応したのか？ 1 : 20 を見てください。「このとき、ヨブは立ち上がり、その上着を引き裂き、頭をそり、」とすでに見ました。ヨブは大変な悲しみの中にあつた。その後「地にひれ伏して礼拝し、」とあります。彼はこの状況の中にあつても神を崇めるのです。彼はこんな失意の中にあつても神に対する敬意を現わすのです。彼は分かっていました。先に見たように、この方は全能の方であり、この方は完全な方であり、この方は正しい方である。この方が為さることはすべてにおいて完全であり正しい、これが神であると。分からないのは、神が為さっておられる完全なみわざを理解する知恵が自分がないからだと言います。だから、ヨブはこのような悲しみの中にあつても神を崇めるのです。つまり、このことはヨブがどれ程深く神のことを知っていたかが明らかです。私たちがこの立場に自分を置いたとき、果たしてどうでしょう？ヨブと逆の行動を取りませんか？神に対して不平不満を言い続けたりしませんか？ヨブはそうしませんでした。神がどういうお方かを知っていたのです。その方に対する強い信頼があつたのです。

だから、神は言われました。「ヨブのようなこんな信仰者はこの地上にはいない。」と。このような状況にあつてもヨブは主に対して信頼を持ち続けていたのです。21節のみことばを見ると、ヨブの考えていたことがよく表わされています。「そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」。

***ここに二つのことを見ることが出来ます**

(1) ヨブは物のはかなさを知っていた

この世のもののはかなさです。どんなにすばらしいものでも壊れてしまったり古くなっていきます。もっと言うなら、ヨブが言ったように、私たちは裸でこの世に生まれて来ました。死ぬ時と同じです。私たちは死ぬときにこの世のものをもってどこかに出掛けていくことはできないのです。それなら、私たちが永遠に持ち続けることができないものに価値があるのかどうかです。ヨブは死を迎えたときに何も持っていくことができないという現実をしっかりと踏まえていたゆえに、自分の財産も、自分の愛する子どもたちでさえも伴うことはできない、裸で生まれひとりで死んでいくと言います。自分の財産も子どもたちもすべて神が私に託してくださったものだ、自分の所有物でないことをヨブはよく知っていたのです。

(2) ヨブは主が主権者であることを知っていた

その後【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」とあります。主がすべての主権者である、神が良しと思われるものは与えられ、そして、「これまで」というときにそれを取られる

と言うのです。愛する子どもたちでさえ、これは私の私物ではなく神が私に託してくださったものだ、ヨブはよく分かっていたのです。神が良しとされるときに神のみこころが成される。取られるのなら、神は取られると…。この世のすべてのものは神が託してくださったものだから、所有者は神であるゆえに神が望まれることを為されたいのだと、ヨブはこのような考えをもっていたのです。

本当に永遠に価値あるものは何なのか？ 私たちもそのことを学ぶべきです。地上にどれ程のものを蓄えても、私たちが死を迎えたときには悲しいことにすべて地上に置いていかなければなりません。イエスが言われたように「天に宝を積みなさい」と、それこそ永遠に価値あるものです。同時に、私たちが覚えなければいけないことは、私たちの持っているすべてのもの、私たちのいのちに至るまで、すべて神が私たちに託しておられるということです。神が「これまで」と言われたなら、私たちが日々どれ程健康に注意を払っていても、それまでです。健康に気を付けながら日々をしっかりと生きることは必要です。でも、このいのちを司っておられるのは神です。所有者は神です。

*「誠実な人」：彼はなお、自分の誠実を堅く保っている

ですから、このように考えていたヨブは22節に「ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。」と記されています。ヨブ自身、大変な信仰をもっていたのです。ですから、神がこのヨブに対して為された評価「彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいない。彼はなお、自分の誠実を堅く保っている。」、これはヨブが何を言ったかではありません。ヨブはどのように生きたのか？です。彼はこのように生きたのです。そして、ヨブが正しい動機をもってこのような歩みをしていることを知っておられる神は、そのすべてを知って「ヨブとはこのような人物である」と彼に対する評価を与えておられるのです。ヨブの信仰の歩みの結果です。

*ヨブの妻の証言：2：9

面白いのは、同じように悲しみを共有したヨブの妻がこのように言っていることです。2：9「それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。」と。このことばを聞いて「彼女が言っていることはよく分かる。私も同じ気持ちになるわ…」と言われる方がいるかもしれませんが、ヨブはこれをいさめています。なぜでしょう？彼女も同じように大変な辛さの中に、悲しみの中にいました。私たちが経験したことのないような悲しみ痛みです。でも、彼女は悲しいことに、神がお喜びにならないことを口にしたのです。思い出しませんか？「主よ、そんなことがあってはなりません。」と口にしたのはだれでした？主イエス・キリストがこれから十字架に架かって、すべての人の罪の身代わりとなって十字架で贖いを成し遂げると言われたときに、だれが主をいさめ始めましたか？ペテロです。「するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」（マタイ16：22）と。そのときにイエスは「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」（16：23）と言われました。

悲しいことに、このヨブの妻は神のことを思わないで人のことを思ったのです。サタンは巧妙にこのような状況の中で、ただ一人残された一番身近な愛する妻を通してこのような誘惑をするのです。「神をのろいなさい」と。そのときにヨブは「しかし、彼は彼女に言った。「あなたは愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざをも受けなければならないではないか。」ヨブはこのようになっても、罪を犯すようなことを口にしなかった。」（2：10）と、すべては神の御手の中にあるとして、彼は神の前に正しいことを選択し続けたのです。神がお喜びになることを考え、それを選択し続けたのです。だから、神はこんなにすばらしい評価を彼に下したのです。「すばらしい霊的な信仰者であった」と。

⇒ヨブが「誠実な人」であることを証明した彼自身の歩み

さて、私たちはこのヨブという人物について学んで来ました。最後に言えることは、私たちもこのように生きていくことができるということです。彼と同じように私たちも生きることができるのです。

*ヨブの歩みはこの二つに要約できる

1) 従順に生きること

彼の歩みは主に対する従順さ、それが彼の特徴でした。どんなときでも神を信じて信頼をおいて、神に従い続けたのです。そのような歩みは私たちにもできます。テサロニケの教会の人たちの例があります。Ⅱテサロニケ1：4「それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。」、彼らは大変な迫害に遭っていました。ところが、彼らはその中で神に対する従順さと信仰を持ち続けていました。そこでパウロは彼らを称賛するのです。すばらしい歩みをしていると。テサロニケのクリスチャンたちはそのようにできたのです。ということは、私たちもできるのです。

では、彼らはどのようにしてそのことを実践したのでしょうか？

(1) 主の約束を忘れない

私たちがいろいろなことを経験するとき、私たちは神の約束を忘れてしまいます。たとえば、私たちが非常に淋しさの中にいるとき、自分は一人ぼっちだと思ってしまいます。そのような思いを許してしまうと、私たちは違った方向へ進んでしまいます。そのような私たちを励ましてくれるのは神の約束です。「…わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」(ヘブル13:5)とされました。これが神の約束です。そこに立つことによって「ああ、私は一人ではない！神がともにいてくださるのだ」と、神の約束が私たちに力をくれるのです。私たちはいろいろな必要を抱えています。でも、神は「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」(ピリピ4:19)と「あなたの必要はわたしが与える」とされました。私たちはその約束に立てるのです。私たちの信仰は神のおことばに立っているのです。神が言われたことを信じているのです。神の約束を信じるのです。そうして私たちは生きていきます。その私たちが神の約束を忘れてしまうなら、どのようにして自分を励ましますか？自分が経験する誘惑にどのようにして勝利できますか？神の約束に立つのです。神がこう言われている、神はこのような約束をくださった、だから、私は心配するのは止めよう、この方に委ねておこう、神ご自身の約束だから…と。

(2) 主に祈り続ける

二つ目は、どんなときでも祈り続けることです。感謝なことに、私たち信仰者に与えられた特権は「絶えず祈り続けること」です。それを神は良しとさせていただきます。いつも神はあなたの祈りを聞いてくださるのです。それなのに私たちは祈らないのです。自分でやりますから神さま大丈夫ですと。「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。」とローマ12:12で教えています。このようにして生きることができるのです。

神の約束に立ち、神の前に祈りをもって助けを求め続けることができる、知恵を求め続けることができるのです。こうして、生きることによって私たちはどんなときでも神の約束に従順に従っていくことができるのです。

2) 罪から離れること

「聖さ」を求めるのです。2:10で見たように「ヨブはこのようになって、罪を犯すようなことを口にしなかった。」と、ヨブはどんなときでも神の前に正しいことを選択しようとし続けました。ですから、私たちも罪から離れることです。神がお喜びにならないことから離れ、神が喜ばれることを選択しようとしします。そうすることによって、あのテサロニケのクリスチャンが従順に歩み続けたように、神に喜ばれる歩みをして来たように、そして、ヨブ自身がそうであったように、あなたもそのように歩むことができます。どんなことでも、しっかりと神の約束に立ち、祈りをもって、従順に主に従い続けること、そして、罪から離れて聖さを求めて生きることです。

さて、私たちは今日、ヨブという一人の人物を見て来ました。神が大いに祝された人物でした。すばらしい父親でした。家庭においてもすばらしいわざを為したと。それもそのはず、彼はすばらしい信仰者だったからです。彼は確かに、誠実に生きた信仰者です。そして、神はそのことを私たちにも望んでおられます。信仰者の皆さん、そのようにして生きることができるのです。みことばはどのようにすればいいのかを教えてください。そして、感謝なことに、弱い私たちを助けてくださる聖霊なる神が常に傍にいてくださるのです。聖書は「こう生きなさい」と教えてくれます。そして、それを実践するために必要な助けをあなたに備えたと言われました。問題は、「神さま、私はそのように生きていきたいです。」とあなたが決心することです。そのときにそのような神の約束があなたのうちに成されます。

どうぞ、正しい選択をもって、神が喜んでくださる、神のすばらしい評価を頂ける信仰者として、今日から歩んでください。そして、主にお会いするその日を待ち望みながら、この日を大切に歩んでいきましょう。

《考えましょう》

1. ヨブに対する主の「評価」を記してください。
2. 主はどのような人を「誠実な人」と呼ばれるのでしょうか？
3. ヨブのもっていた「神観」について説明してください。
4. どうすれば、ヨブのように生きることができるのでしょうか？